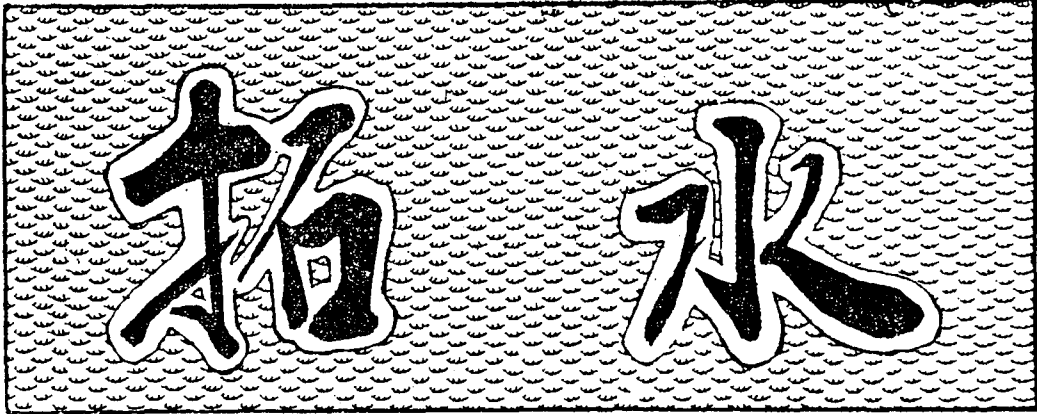


第廿五号昭和卅三年九月十五日発行  
毎月十五日一回発行 一部 十円  
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可



九 月



兵庫県漁業協同組合連合会  
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

## 魚函及び水産加工品の取引単価の標準化

去る九月一日より実施されているメートル法への切換並びに水産物の取引単位の簡素化を目的として、本年四月大日本水産会に魚函標準化委員会が設置され、全国主要水産県の業者に意見を徴し、慎重審議の結果下記のとおり決定しました。

### 魚 函 の 標 準

名 称	長さ(cm)	巾(cm)	高さ(cm)	標準内容量(kg)
1 号 函	60 (2.00尺)	36 (1.20尺)	10 (0.33尺)	10
2 号 函	60	36	13 (0.43尺)	15
手繰 1 号 函	60	38 (1.26尺)	14 (0.46尺)	25
手繰 2 号 函	63 (2.10尺)	38	15 (0.49尺)	30
手繰薄函 1 号	60	38	10	10
手繰薄函 2 号	63	38	10	10
通 樽	(近海、三陸)			35

(注)

- (1) 魚函の規格は現在使用中のもので、その利用度の多いものを標準とした。
- (2) 長さ、巾、高さは総て外法の寸法である。
- (3) 金属函は木箱に準ずること。
- (4) 黒皮かじき、ばち、きわだ、さめ、ぶり等の木箱(長箱)及び特殊品扱いのものは例外とする。
- (5) 冷凍品の中、くちら、さけ、ます、ぶり、北洋かれいは例外とし、いか、さんま等大衆魚の冷凍品は7.5kg及び10kgとする。

### 水産加工品の取引単位の標準

製 品 別	包装	正味重量(kg)	内 容 品 目 の 例
素 干 品	函	15.10.(8)5.	みがきにしん、田作、その他
	梱、俵	75.60.	するめ、たら類
塩 干 品	薄 函	4.3.	いわし、さんま、あじ、さば、すきみ、いか、その他
	函	15.(12)10.(8)	
煮 干 品	梱、俵	75.60.	たら類
	函	15.(12)10.	いわし、あじ、こうなご、その他
塩 蔵 品	紙 袋	4.3.	
節 類	函	30.20.15.(12)10.(8)	いわし、さば、さんま、さけ、ます他
魚 卵	樽 函	30.20.	
つ くだ に	樽 函	(12)10.(8)5.	すけそうだら、すじこ、かずのこ
塩 辛	函	10.(8)5.4.	
海 藻	樽 函	(12)10.(8)5.	いか、あみ、うに
そ の 他 水産加工食品	梱、俵	40.35.30.	てんぐさ、わかめ、その他
	薄 函	(7)5.4.2.	みりん干、さくら干、なまり節、くん製、貝類、その他
肥 飼 料	函	30.15.10.	
水産動物油	俵	90.50.	一般魚粕、荒粕
	ドラム	18.1.5	一般、但しまつこうは178kg
	石油缶	19.5	

(注)

- (1) 単位の標準については、最近最も多く取引されている単位を選び、且つ各県検査単位を勘案したものである。
- (2) ( ) 内の数字は暫定的なものとし、将来は除外するよう努力すること。
- (3) 塩干品欄の薄函 3kg は、生干品(水分量約 50 c/o 以上)等に利用するものである。  
例…開さんま3kg函 5ヶ合せ等。
- (4) 包装欄中、函とは木箱及びダンボール函である。

# 五島方面漁業調査紀行 (一)

水試管原技師

果外出漁協会も本年は全県下を一丸として会員に包含し新発足をし、果水産課及び水産試験場も出来るだけの援助をして果外出漁を推進してゆくことになり、本年までは対馬出漁に殆んど主力を集中していたが今

後更に出漁範囲を広めるために今年五島方面から更に沖合の男女群島方面の漁業の実状を調査して出漁したいとの要望が出漁協会の役員会であった。時期的には七月との要望があったのであるが、試験場の兵庫丸の業務の都合で何うしても七月には調査にゆけなかつたので八月に入つたが季節的に言つて中旬をすぎると台風のおそれもあるので、十日頃までに調査を終るよう予定をくみ、乗船人員にも限度があるので水産課から一応調査人員を十五名を限度として希望者を募集した。前番が大変長くなつたが、実際に調査に行ったのは内海側の人は五日に下関から兵庫丸に乗船し、但馬の人は三日に津居山から乗船して調査を行った。小生

も下関から乗船したのであるが、調査員のメンバーについて始めの予定より相当変更があり、予定では十五名であったのが、日本海側で四名、内海側で三名不参加になつたので、一寸がっかりしたが、沼島から老軀をおして扇氏が来られ又対馬にずつと出漁されている平岡氏の子供さんが見えなかなか熱心なので元氣を得て五日正後下関漁港を第一の目的地長崎に向け出港した。ここで調査団の人々を記しておく。果水産課から

臼杵技師、内海側からは沼島、坊勢の各漁協組合長、伊保漁協の漁村青少年クラブの会長、福良漁協の理事、明石市水産係の長野技師、但馬側からは津居山漁協の組合員二名、それに対馬の平岡氏に小生を加えて総勢十名であった。さて話をもとにもどして下関を出て此のままずっと航行すると長崎入港が一寸早くなりすぎるので彦岐と平戸との間で一寸いか釣りを行いおかずの援助をしようといふと八時頃から二時間程やりいか釣

りを行った。本格的に行つたのではないので漁獲は大したことはなかつたがそれでも二十尾以上は釣上げたので船員も喜んで一人一尾あての漁獲になり時間もよくなつたので釣りまわりあげ一路長崎に向つた。釣りをあげたいかは大きいのは五〇〇グラム程度普通三〇〇グラム程度のものであった。翌朝の食事に早速刺身で一同舌鼓を打つた。甘味があり非常によい味で一同大喜びであった。

長崎には朝七時半頃入港し魚市場の卓頭に船をつけ、早速長崎果水産試験場を訪問し五島方面の漁業につき場長は丁度対馬方面へ出張中であつたが、藤田技師からわかりやすく年間の漁業について概要説明を聞き、五島方面の漁場、漁業について調査の予備知識を導入し、次に西海区水産研究所に辻田博士を訪ね更に男女群島方面及び東支那海方面のレシコ、鯉釣などについて話を聞き知識を深めて西海区水研をじした。西海区水研及び長崎果水試で五島方面の漁場、漁期、漁獲物、などについて話をきいたが大要は左のとおりであつた。先づ鯛についてみると盛期は三月から五月でいわゆる上り鯛と称するもので此の時期には天草方面から船団で相当数五島海域へ出漁

## 目次

魚函及び水産加工品の取引単価の標準化	1
五島方面漁業調査紀行	
(水試) 管原技師	2
兵庫県菅福原かん水養殖場のこと	
田寺伸彦	3
エンジン講習会の一コマ	
(兵水試) S生	10
本邦より海外出漁について	
兵庫果水産課	11
頑張る内職グループ代表者達内職団体代表者打合せから	
淡路水産指導局長	
小黒武	12
海区漁業調整委員会委員決まる	
水産課調整係	14
台風十七号の被害状況	
水産課調整係	14

しているようである。漁場は主として五島南部海域及び西部海域の高麗瀬、白瀬、大瀬崎沖の曾根(こちらで言う磯)が主漁場となっている。これらの根拠地は時期によって多少異なるが荒川、青方、などが主根拠地のようである。そして鯛が北上するにつれて魚群を追って北上し平戸方面まで移動している。

その他沿岸の釣では春から夏にかけていか釣、五月から六月カンパチ(アカバナ)カワハギ(ハゲ)夏になると鯖(主としてゴマ鯖)鯉が多くとれるようになる。秋になるとヨコワが対馬方面から南下して来るので此の時期には和歌山方面の船も魚群を追って五島海域に南下して来る。次に冬に入ると主としてブリの漁獲になり釣では一本釣の外に立縄により相当漁獲もあるが定置網が非常に多く活況を呈している。なお前述の鯛は上り鯛の時期以外でも沿岸において一本釣で小鯛は周年釣れておるようである。なお稍沖合の釣についてみると春から夏にかけてフカ縄は大分盛んであり又アマ鯛、レンコ鯛の延縄が秋から春にかけて山口県方面から十四、五屯程度の船で相当数出漁して来ておる。然しこれら大型の船は五島には別に根拠地と言

ったものは持たず水揚も殆んど長崎、或いは博多と言った消費地へ直航しているようである。以上で水研、水試でのきいた話を非常に大ざっぱに纏めたものであるがその後、長崎県庁水産課を訪問し五島支庁への連絡方、及び今後出漁した場合などの事をお願いし五島到着の時間など考え夕方から午後十一時まで自由行動と各自長崎市内を見物して歩きいゆる坂の長崎情緒を堪能した。午後十二時長崎を出航しいよいよ目ざす五島へ向った。先づ最初は水産課からの連絡もあったので五島福江市の長崎県南松浦支庁を訪問した。福江港は入港前小生が予想していたよりも防波堤の工事も行われ未完成ではある割合によい港のように思われた。全工事が完成すれば台風などのように特別な場合を除けばよい港になるものと思われる。又市街も予想よりも賑やかで丁度本県の高砂位の市街地があるようであった。支庁では五島の地元組合の他県船の入漁受け入れについて種々きいたが別に他県船を拒むと言うような事はないが鯛延などについては既に漁場が狭い位ではないかという意見もあった。特に最近の傾向として地元でも一本釣の船も大型化し発電機を据え

付けて強力な集魚灯による一本釣がだんだん増加し、これに輪をかけるようにイワシ巾着網の不漁による転換として相当大型の船で集魚灯により沖合の一本釣を行うようになって来ている。従って極沿岸の延縄を主として鯛だけを目的として出漁するのは経済的に採算が合わないものと思われる。だから地元で利用していない資源で何か本県の業者が利用出来るもの思っているいろいろきいてみたが何しろ資源的な事はなかなか難

しくははっきりした事はわからないが一応タコとフグについては或いはやり方によってはうまくいくのではないかと思われた。タコについては県自体も相当開発の余地があるとして漁法なども研究しすすめている。今のところ漁法としてタコ壺を考えてやらせてみようということになっている。各組合での状況については次号に掲載することにして本号では一応これで筆をおきます。

### 兵庫県 福良かん水 養殖場のこと

田寺伸彦

もう二年位に前の事になろうか、やはりこの拓水「引田漁協のこと」と云う題の拙い文章が掲載されて居たのを未だ憶えている人があるだろうか。香川県の引田漁業協同組合では安戸池と言うかん水池を利用してはまちの養殖をし、それで大いに儲け組合経営は凄く調子が良い、全く羨しい限りだ。と言う様な事でした

りました。しかしあれを「拓水に出せ」と私に命じたのは水産課長でありましたから課長はもうあの頃から兵庫県のかん水養殖事業を計画して居たのだと思います。そしてその時から二年過ぎた今、やはりこの拓水に私が、今度はいよいよ「兵庫県福良かん水養殖場のこと」と言う題の拙い文章を書かしてもらえらる事は正直、何んとなし嬉しい気持であり

ます。

このかん水養殖の事は今まで何回となし新聞等に大きく書かれたり、先だつては映画に写されたりもしましたが、その度に全くヒヤヒヤして居ります。「そんなに宣伝されて若し失敗したら何うしよう。決して事業は成功どころか、順調にさえ進むかどうか解らないのに。」と思うからです。かつて私は伊豆半島の定置漁場に居た事があります。彼処の網は水深八〇米位の所に張立てる巨大な鰈落網で、この網の主漁期、一月下旬から二月頃になると漁場全体が重苦しい緊張感にとりまかれます。

待ちに待った鰈は今日来るか、明日来るか、今日来なければ必ず明日は来るに違いない、明日なければ明後日こそ必ず来るぞ、そんな事を考え乍ら人々は、男達は夜も昼も山から網を見守り、女達は毎晩ウチワ太鼓を打って大漁を願います。そんな或る日私はこつそりと「洞の婆ーさん」と呼ばれる盲の老婆を訪ねました。この婆ーさんは田舎によくある千里眼の祈禱師で勿論漁の具合を聞きに行ったのです。「おー見える、見える」婆ーさんは手を前に差し出し、空を見上げる様な恰好で咳きました。「あー、大きなナムラだ、一

つ、二つ、大きな群が二つ、小さいのが一つ、見える、みえる、おやーあ、シオだ、白い潮が行く、ひどい潮だなー」私はドキツとしました。

「ババー奴、飛んでもない事をヌカしよる」定置網にとって風より波より一番恐ろしいものが潮流です。網の浮子が弱い時には浮子を下に沈め、ついには水圧のため竹アバの浮力を無くして終い再び網を水面にもどせなくして終います。又浮子が強すぎると浮子棚から鰈網をムシリ取り、一万数千の土俵で固定した網の台を引きづり出して終う潮流の恐るべき暴力をよく知って居たからです。結果的にこの婆ーさんの予言は余りにも見事に無惨に適中しました。その翌々日網は五節位の潮を受けて全滅したのです。先ず垣網が流れ出し、更に流れ出した垣網が運動場を、昇りをひきづりそうして最後の垣網までもひっぱり結果となり遂に全滅して終いました。私達が丁度火事の焼後の様な惨憺たる漁場で僅かに残った網地や錨網を引き揚げて居る時、隣の漁場にあれ程待った鰈の大群が乗ったと言うニユースを聞ききました、全く何んと言うか実にヒドイものでありました。この時から暫く、私は何時も海の中をズタズ

タに破れた網がフワフワ流れて行く向うを何万何千とも知れぬ鰈の大群が眼を血走らせ、まなじりをつり上げて狂奔暴走して行く様を考え続けました。

こんな私の経験があるので余計にこの「かん水養殖」計画をトガらせ、少々ノイローゼ気味になったのかも知れませんが、とにかくこのかん水養殖の網仕切と言うものは定置網とよく似て居りますが、やつかいなことはそれ以上で六月から十一月まで五ヶ月間何んな事があっても破れる事が許されないので。養殖場の区画仕切は常に完全でなければならぬのです。魚を獲るのであれば一〇〇尾中の九〇尾も獲れば先ず成功でしょうが、養殖場内の一〇〇匹の中一〇匹が逃げたと言う事はそのすべてを逃がして終うことに通じるのです。私はかん水養殖の成否は養殖場の区画仕切にあると考えました。

もっとも、この考えは暫くして変わりましたが、

この事業をする為の先ず第一番目の仕事は予算を獲る事でした。「役所は予算(予算(資金の割当))が無くては兎に角話になりません。私共の四〇〇万円の要求に対して二五〇

万円が認められ直ちに具体的計画の検討をはじめました。思えば随時変な話で一つの仕事をするのに四〇〇万掛ると言うのにその仕事を二五〇万で「やれ」と言う者も馬鹿げて居りますが「ま、とにかくそれでやって見ましよう」と言う奴も何うかして居るのです。まあそんな訳で仕事の設計は全く初めから作り直さなければならぬ残業等を続け乍ら具体的設計を大急ぎで進めました。

今年三月上旬頃の事でありました。一体何処に養殖場を作るのか、又作られた養殖場の実際の管理運営は何んな形であるのか、これを決めるのも大きな問題でありました。当時設置希望のあった香住町、坊勢漁協、南淡町の三者の内何れにするかと言う事ですが随分と色々水産課内で考えたあげくこの事業に最も重要な三つの条件、つまり地形、飼料、販売の三つを最も多く満たす所は何処か、と言うことになり結局南淡町福良が浮び上り、養殖場の管理運営は果から町に、町から福良の漁協に委託をすると言う事になった訳であります。これより先、私はこの仕事の為岡山県日生に出張し昭和三十二年から其処で行われて居るはまち養殖の実態を見学し又養殖上の大切な話を聞

きました。しかしこのかん水養殖事業と言う様なものの仕掛は岡山の日生のものを、そつくりその儘福良湾でマネても駄目なものです。岡山日生のものは岡山日生の海に最もフサワしくして福良湾には少しもフサワしくないのではありません。福良にはやはり福良に一番ピッタリした仕掛を考案しなければならぬだろうと言う事になりました。

しかしその一番ピッタリした仕掛考案は仲々はかどらず唯アダ、コダとサワいで居る内に養殖場予定地の精密測量が終り、ハマチの稚魚の産地である三重県浜島、尾鷲方面で早くも香川、岡山の連中が稚魚購入の準備をして居るとの情報が私共の耳に入り「こんな事して居れん、マゴマゴして居ると今年のものにならん」と、ともすれば尻込み勝ちの私は少しばかり気合を掛けられた形でありました。

このハマチ養殖事業と言う仕事は遅くとも六月末までにはその稚魚を養殖場に放さなければならぬので、それまでには必ず養殖場の区画網仕切は完成しなければならず又それまでは必ず三重県からはまの稚魚を必要量だけ購入し運搬して置かなければならないのであります。若

しそれが出来ない時は来年まで養殖は不能と言うことになるので私共は勿論福良の漁協の方でも随分ヤキモキと急ったものであります。そして福良の飛松漁業組合長が悲愴？な覚悟で先進県に伍して稚魚買付けのために三重県尾鷲に乗り込んだのは六月十六日の晩であったと記憶して居ります。又養殖場の区画仕切網の最終的設計の決定をみたのは五月十二、三日頃で、これはもう資材を発註し仕切網の工事期間を考えると全くギリギリの時期でありました。

養殖場の区画仕切は金網と漁網と二た通りとし、通称「蛇のヒレ」と言われる干出した砂洲二二〇米は金網（七番線クリン〇一寸目）で仕切り水深約十米の海面一三一米は化繊漁網で仕切る事にして設計を進めました。が、いくら化繊の漁網であつても僅か一枚では少し心細いと言う考えから同じ網を二枚と更に堅繩の補助網を一枚追加し、計三枚の網を並行に張立てました。この網の設計で私共が最も困ったのは水深と網たけの關係でありました。つまり「十米の深さの海には何米の高さのある網を張立てるべきか、網だけを何米にした時が網に対する潮流や波や風の影響が一番少くないだろうか」と言う

問題でありました。

しかも、福良湾における干満差や台風時の高潮による水深の変化も併せ考えねばならないのでこの問題は非常に難つかしく結局の処、解らないままに次の様にして「これ位いで良いだろう」と言う事にしたのです。

水深＝D 蓋たウ＝N

1. 干満差 N=1.55D

2. 沈降差 (L.W+1.8m)

N=1.3D

3. 吹風による沈降差

(L.W+1.8m+1.2m)

N=1.16D

使用網地はすべてミユロン15本に節蛙又コールドール染を用い、これに取付ける浮子網、沈子網等一部を除き殆んどクレモノロープを用いました。沈子には従来の鉛足を使はず五分の鉛鎖を連続に使用し仕切網と海底とが離れるために生ずる養魚の逃散を防ぎました浮子棚はそれに取付けたガラス玉の浮力と沈子側鉛鎖の沈降力と、水深の平均三倍に伸ばした鉛網の三者により固定させました。が、この固定を更に補ふために浮子棚と、空中に張られた四分ワイヤーロープとの間を吊索によって連結しました。

これにより鉛網が切れる様な事があつても網は決して流れる事なく依然として区画を続けるものと考えました。しかし全体的にみてこの網の浮力と沈降力はバランスをとらず、何ちらかと言うと浮力をやや弱くして網に対する外力の抵抗を減じその安全を図りました。そしてこの為に生ずる浮子棚沈下約二尺による養魚逃散に対しては前垂網を取付けて防止出来るのではないかと思います。

区画された養殖場と外海との連絡は仕切網の端に水門を設け、この水門の中に張った二枚の水門仕切網の浮子網を圧しつけて船が出入り出来る様に考えました。こうして養殖場の区画仕切網が完成したのは六月二十八日でありましたが、三重県尾鷲から購入し生船で運搬されたハマチ稚魚はこれより早く六月十九日から四回に亘って約五万尾が既に到着して居り、これらは直ちに六ヶの小割（縦横深各三間細目の網いけす）に収容し餌付けと言ってイカナゴを細く切った餌を喰べる練習をさせて居りました。「魚がもう着いて居るのに網は未だ出来ない」と言う声に追はれ乍ら、心の中では「そう慌てるな、せいては事をし損じる。飽くまでも慎重に注意深くやろう」と思い



乍ら大急ぎで仕切製作工事を進めました。

網がやっと完成した次の日、六月二十九日、折から降りしきる小雨の中で待望の稚魚放養を行いました。稚魚一尾平均一八匁、四八〇〇尾でありました。小割から掬はれた魚は数を減らされて一尾一尾と養殖場に放されて行きました。「とうとう魚が放され終った、網は大丈夫だろうか、水質はベツチョーないだろうか、餌をよく喰うだろうか、そうして秋になって売るときには果して何匹が残って居るだろうか」そんな事が頭の中に次々と現れて実に心細く不安なものでありました。これから

の梅雨、それに真夏の日照り、水温が三〇度以上になるとハマチは死ぬと言われて居るのです、秋には必ずやってくる台風、この三つの難関を何うして越したものと少女の様に思案にくれたものでした。そして何年か昔に経験したあの悪夢の思い出がマザマザと甦って来るのでありました。

魚を放してからの養殖場の仕事は投餌と仕切網管理であります、これは四人の従事員で行われましたが、仲々忙しく苦勞の多い仕事であり

ます。投餌は養殖場内に造った投餌用の台船から毎日朝夕二回時間を決めて行いました、冷蔵庫から運んできた冷凍のイワシやイカナゴを海水に漬けてよく溶してから少しづつ撒くのです。しかし投餌はメクラ滅法にバラ撒くのではなく全部の魚に平均に行き届く様に、しかも撒いた餌がすべて喰べられて底に落ちて終はらないように注意深くまかねばなりません、ハマチと言う魚は一度底に落ちてしまった餌は決して喰べない上に、この海底に溜った餌はやがて腐り必ず水質に悪影響を及ぼすらしいのです。水質を見るためには毎日水温や透明度やプランクトンの測定を続けました。南淡町の中野さんが採水器で採った水を調べ乍ら「何うもキシヨクが悪い、今日は表面と四米層が同じになつると」怒った様に言う時がありました。全く雨がサッパリ降らず暑い日が続きますと表面水温と底層水温との差が次第に少なくなくなり、私共を何んとなく不安がらせたものでした。表面も底も同じ温度になったら魚は死ぬのではない

だろうか、もう二、三日日照りが続いたら三〇度を超すのではないだろうかと思いました。(最高は二九・五度まで昇りました)この中野さんは南淡町の技術改良普及員ですが、未だ海の水の冷めたい三月頃に始められた養殖場の測量の時から殆んど毎日、時には夜を徹して水質の調査や仕切網の保全と言う余りめだたないけれども最も大切な仕事を続けてくれました。

魚は割合順調に餌を喰い育てて行きましたが、ハマチが喰う餌の量は莫大なもので、その補給に追われる時がありました。七月中に七五〇〇貫八月中は約二万貫の餌を消費して居ります。大体この事業の経費で圧倒的に多いのが餌料代で、これを安く買うか高く買うかと言う事は事業収支上に最も大きく響きます。餌はイワシとイカナゴが使われましたが、イカナゴの獲れる時期とイワシのとれる時期のさかかじめにあたる暫くの間、福良漁協の冷蔵庫に餌の在庫が僅かに二日分だとか、三日分しか残っていない日が続きました。こう言う時は嫌でも高いものを買う処か、高いの安いのと等と言う余裕は無くなつて終うのです。餌は出来るならば初めの内に必要量の大半を安く

買って何処か冷蔵庫にでも入れて置くのが一番良いのかと思いました。福良で餌がなくて困って居る時、香川県引田漁協養殖ハマチの餌(イカナゴ)が五万貫も川西の冷蔵庫に入っている事を聞き「何んとかそれをして少し分けてくれませんか」と厚釜しくもお願ひしましたが、引田であっても数多い魚を飼って居る夏のさ中に勿論分けて呉れる筈はありませんでした。しかしこの餌確保状況をみて流石に養殖事業の先進者だけの事はあると恐れ入りました。そうして私共は致し方なく若狭湾の高いアヂをトラックで運んだものでした。一方、仕切網は初め私が予想して居たより遙かに重くなりました。網を入れて四十日で水面から三米位の処までフデツボやらコケムシ、ホヤ等が密着生し網目はなくなる程になつて居り、浮子網等は七分径のものが三寸径位の太さになつて水面から三尺程沈下して居りました。これでは魚に逃げられて終う、と言う訳でこれに対してドラム缶や竹を付けて浮力を増し、同時に空中ケーブルへの吊索をしめつけ更に前垂れ網を追加する作業を行いました。

この頃、よし「魚が逃げたらしい」と言う噂を聞きました。去年ま

で居なかったのに今年は何処何処にハマチが湧いて居た、とか誰その昨日釣ったハマチはありやあ天然のものど違うぞとか、色々な噂が乱れ飛びました。ハマチはあの時ほんとに逃げたのか、逃げなかったのかそんな事は解りません。しかし今まで香川県や岡山県で聞いた話ではハマチの養殖をして「六割止れば上等だ」と言う事ですから、多少死んだり逃げたりするのは何うにもしようがない事なんだろう、と自らを慰めました。

幾日か暑い日が続き、又、幾晩か風の夜が過ぎて八月も何時か終りに近づき沖の方から、さらさらと吹き渡る風にふと秋を思わせる朝、養殖場に船を入れた私は魚がもう一六〇匁平均の大きさにまで生長して居るのを知りました。魚は大きな二つの輪を画いてクルクル静かに水面を廻って居りました。南淡町が新造した養殖場作業船「ジャノヒレ号」の船首に立って私はハマチ共が水中の廻転木馬に乗って皆んな楽し相に遊んで居るのだと想像しました。魚と親しくなった。と言うと少々大げさですが、魚が私達に慣れたのは事実です。毎日餌を撒く時分には投餌台の下に集って来るのです。若し餌を撒

く時間になっても餌をまいてもらえない時は魚群は其処を離れて終います。そしてその後ではもう餌を喰べたがらず次の餌の時間まで待つて居る様です。随分と心配し気になった

仕切網の破損もなく、何うにか今日まで無事に養殖を続けられた事は全く有難い事だと思えます。現に岡山の日生養殖場では八月十八日の晩に赤潮?のため養殖中のハマチ十七万が全滅したのです。死んだハマチは良いもので貫二〇〇円悪いものは五〇円にもならなかったと言う事でした。又和歌山県白浜では台風十七号来襲直後泥水の流入によって養殖魚の大半を殺して終ったと言う事でした。私共の福良養殖場でも八月の十日と二二日(何れも小潮時)の二回赤潮?らしいものが発生した事がありました。養殖場の半分以上がほんとに赤茶色になり、魚は餌を喰べなくなりしました。「もう駄目かも知れない」と思いました。「水をかき廻したら良いかも知れんぞ」誰かがそんな事を言ったので養殖場の人達は船の後から板や材木を曳いて一生懸命に水面を波立たせたものでした。恐しい心配の一夜が過ぎた次の日、養殖場はウソの様に美しく青く輝いて居たのです。この理由は北風

があった為とも思われましたが正確には解りません。しかし私はこの時つくづくとかん水養殖事業の成否は「水質だ」と言う事を痛感致しました。

そして二度もあんな事があったのに一匹の魚も死なずに済んだのは水深が岡山の様には三米位ではなく十米も有ったと言う事と、も一つは「運が良かったんだ」と言うことであると思つて居ります。

今頃も多分クルクルと大きく輪になつて泳いで居る福良のハマチは、明日を待たずに全滅するかも知れません。或いは何時とはなしに網の破れから彼等の故郷めざして姿を消して行くかも知れないのです。

かん水養殖事業は決して安全で、確実な事業ではない様です。が、しかし、それにしてもこの六月二九日にハマチ稚魚約四万八千尾を放棄したこの福良かん水養殖場から果して何匹のハマチを出荷出来たか、と言うことを一日も早く知りたいものがあります。(台風第十九号の接近を恐れ乍ら)

× × × × × × ×

参考

一、区画仕切網

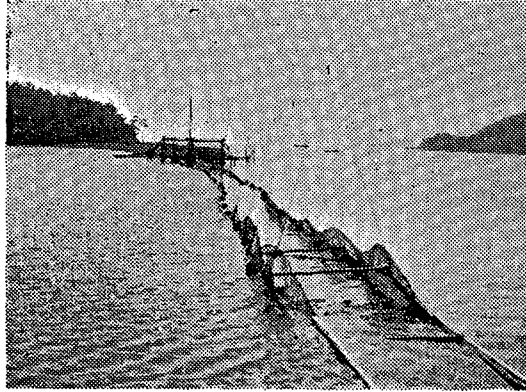
仕様書概略

- ① 沖岡仕切網網地の配置は別図の通り。側網七分マニラロープ七二間。浮子綱三分クレモノロープ七二間。浮子ガラス玉一尺もの三間に一ケの割で側網につける。この外に岡沖仕切網の間かくを保つため心張を三間に一本の割で側網にとりつける。心張は三寸角一〇尺もの杉。吊索四分クレモノ五間(二本)のものを九間おきに心張の両端より空中ケールに取付ける。沈子綱四分クレモノ七五間。沈子五分鉄鎖を沈子綱に添わす。筋繩三分クレモノ六間に一本(長さ図面による)使用する。錯網側張図の通り。前垂網心張の浮沈に関係なく常に前垂網の浮子により水面に浮出さす、掛目四〇目長さは仕切網と同じ
- ② 水門沖岡仕切網 別図の通り
- ③ 繩補助網 別図の通り

二、購入資材一覧

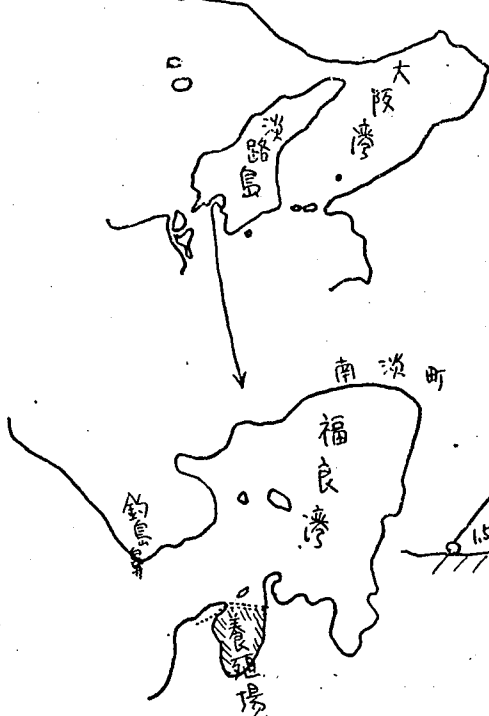
- トワイン二匁二〇玉、マニラスト
- ランド三・五分一〇貫、クレモノ
- ロープ四分一〇丸、三分六丸、マニラ



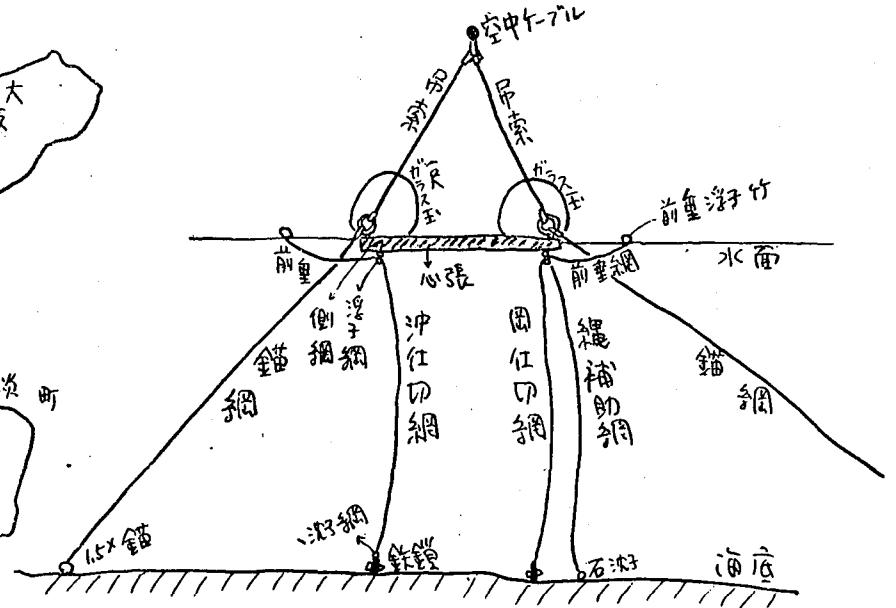


ロープ七分二丸、六分三丸、三分四丸、漁網ミューロン一五本一〇〇掛一節一〇〇間一八反同七節のもの七反、撚糸ミューロン二本四貫堅繩三分四〇〇貫、シャックル五分二〇ケ四分六〇ケ三分六四ケ、コース七分五ケ六分一二ケ四分一〇八ケアイボルト三分四四、ワイヤークリップ四分八〇、ガラス玉三寸一二〇ケ一尺六〇ケ、鉄鎖五分一〇〇尺の一二本、錯一・五〇三〇丁

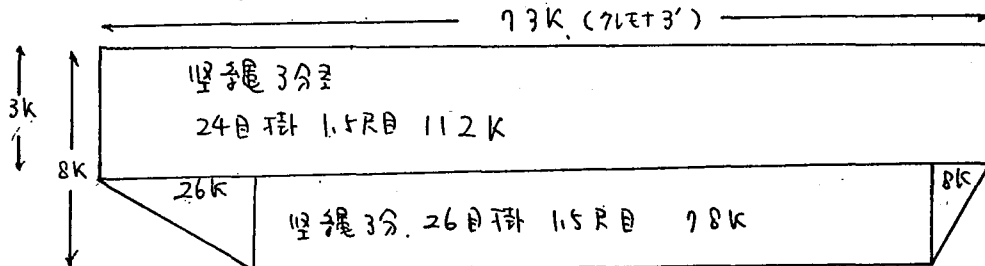
養殖場の位置



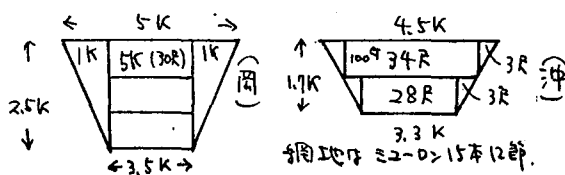
仕切網の縦断面図



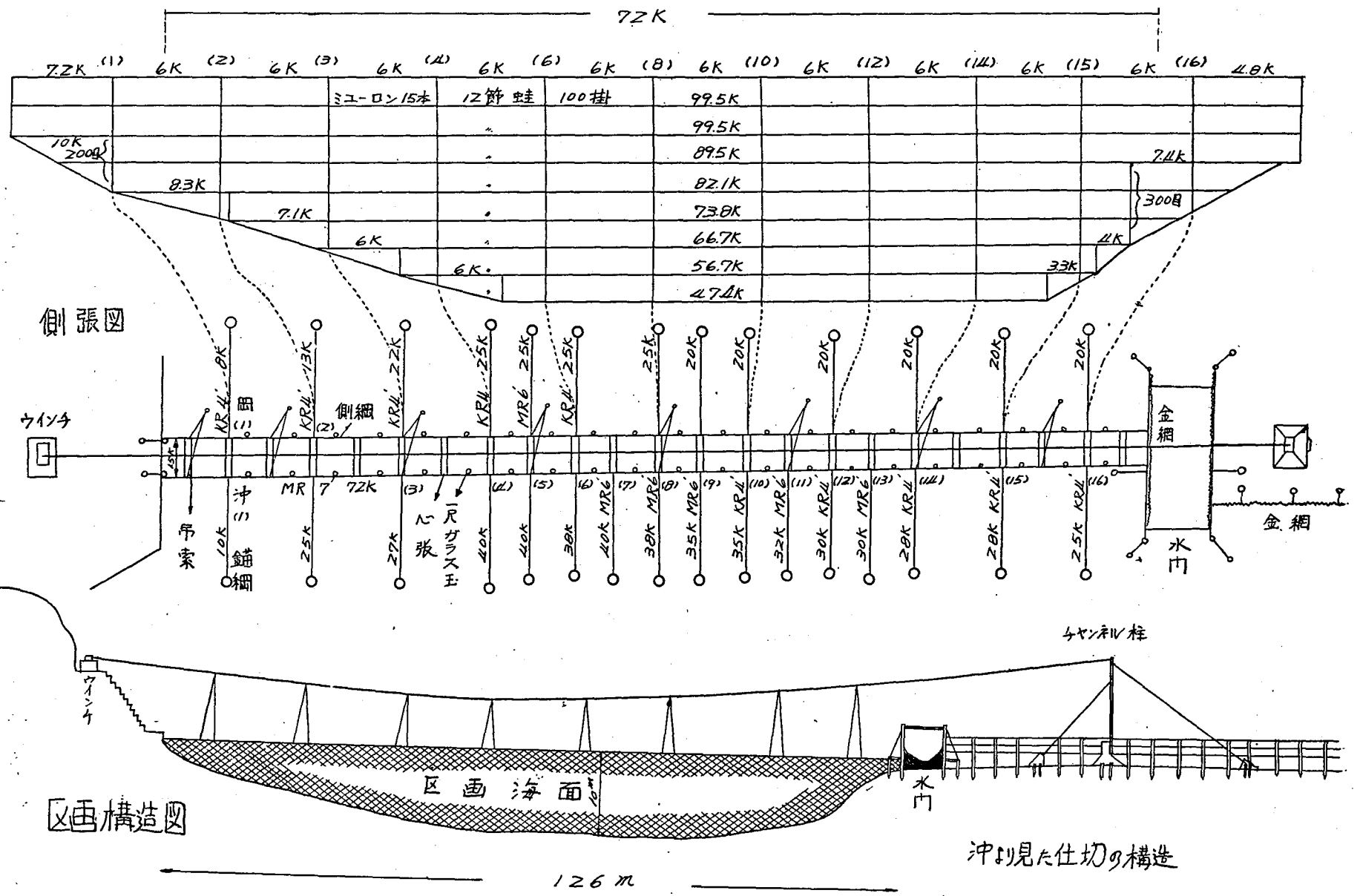
縄補助網 網地配置図



水内紅印網



網地配置図 (沖岡仕切網)



側張図

区画構造図

沖の見切の構造

126 m

3 事業実施予定と実施結果

項目	予定	結果	内容
予備調査	8/6 ~ 8/31	8/6 ~ 8/6	地形、水質の調査
本設材	4/1 ~ 5/5	4/1 ~ 5/15	区画仕切方法の設計 資材費工事費の見積及び資材の発註
資材	4/1 ~ 5/5	5/10 ~ 5/22	コンククリート工事の入札
入札	4/30	5/15	コンククリート工事(金網、空中ケー ブル)の施行、仕切網の仕立
施入	5/5 ~ 5/末	5/10 ~ 5/28	三重県に稚魚購入依頼 小割、投餌の作製
稚器	3/1下	4/1中	
器	4/1 ~ 5/10	5/1 ~ 5/14	
餌	4/1上より	5/1下より	
稚魚	5/1 ~ 20	5/10 ~ 5/25	約48,000尾を購入
放成	5/1	5/9	
養殖場閉鎖	10月 ~ 12月 12月下旬	5/12より	8月 1尾100枚になつた時初出荷

4 収支予算算

科目	収入	支出	備考
金代		240,000円	800人×300円
雅魚		500,000	10円×5万尾
餌船		2,100,000	3万×70(成魚重量6,000×5)
備船		50,000	
雑船		150,000	
成魚販売代金	4,800,000	1,000,000	5万尾×0.6(歩留)×200枚 (体長)=6,000×@800
施設費		760,000	
利益			
計	4,800,000	4,800,000	

「H.N.J.N.講習会」の「ITP」

「メンメンヤリングとは、どんなものや」

と講師、暫らくして年配の船乗然とした親爺ちゃん

「ハイ、」

と勢よく手を挙げた。たいへん生真面目な顔で、

「メンメンヤリングとは、クラシックシャフトの下ブラスのことです。」

「下プラス？下プラスだけがメンメンヤリングか？」

「ハイ、我々は日頃下プラスをメンメンヤリング、上プラスはオンベヤリングといっています。〆」

会場はドットときた。これには講習会なれた講師もしばらく笑がこみ上げてとまらず、講習場も一刻儼然となった。

これは去る七月、水産試験場で行われたナマ船の丙種機関士免状受験のための講習会の一コマである。

いづれでもなく、メンとは main (主なる) という意味の英語で、メンメンヤリングは、正しくいえば、主軸受、上も下も合せていうのである。

る。まことに素朴な答ではあったが、講習生の中の最年長者であるこの親爺さんが、長い船乗り生活の間中、こう思っていたというのは、単なるメンメンヤリングにとどまらず、エンジンについては、いい指導者がなかつたことを明らかに示していると思われた。まあしかし、これなどは一応メンメンヤリングがどこにあって、どんな役目をしているかは知っているわけで、ツミはないが、大体エンジンの各部分が、どんな働きをして、そこが故障すればどんな結果になるかが、あまり判っていない。

それより機械をさわっていないながら全く無知な例を一つ——。

講師「焼玉エンジンで、ハンドルを上げたら、どないなる？。毎日やっていることや」

A「ハイ、よう行っきやります」

……… (問題にならない。)

B「馬力が出ます」…… (少し見込がある。)

私「他には」  
一同沈黙、三十秒をすぎたころ、

優等生クラスが業を煮やして、質問しないのに立ち上って答えた。

C「燃料がよいって、馬力が上がります。」(六十点)

D「ペッカーとプランジヤーの間が小さくなって、噴射量が多くなり馬力がでます。」(九十点)

E「Dさんの答に補足して、プランジヤーのストロークが長くなって、噴射量が多くなり、回転が上

って馬力がでます。」(百点)  
 やっと正しい答がでたところで、講師は先程のA Bにキメつけた。

「君ら、毎日機械を動かしておいて、ハンドル上げたら、どないなのを知らなんだか」

「へエ、ハンドルを上げたら、理屈なしに、馬力がでるもんや(ココに力を入れて)と思てましてん。そんなムツかしいこと知らしまへん。」

講師はしばし窓外の夏の太陽にキラキラ光る海を眺めて、心をしずめるのに時間を作った。稍々あって、やおら

「君らは、毎日エンジン場で燃料ハンドルを上げたり、下げたり、ノズルハンドルやダムパーをあけたり、しめたりしてるが、それがどのように作動をして、ホースビ

ーになったり、スローになったりするのかわからんとあかんやないか。機械は正直だからハンドルを上げたらようまいよる。しかし上げさえすれば廻っておるもんやと思ってるのはどうかと思うで。すべてそんな調子で機械を動かしてたら、しまいには機械の方がいうこと聞いてくれへんわ。それが事故の因になるんや。」

先程の騒しさとはうって変って室内はシーンとした。講師はつづけて「君らはこの試験通ったら、機長や。試験に通っても技術がなかったら何にもならん。技術を磨くことが事故防止に大きな役割を果すんや。それに船は何百万何千万もしよる財産や。それより第一君らが雇っている船員や、君ら自身の命を守る大きな責任を忘れたらあかん。毎年きまっただよりに船の

大事故があるやろ。機帆船や漁船に至っては数えてる暇がない位や。もちろんエンジンの事故だけではないかも知らんが、もし沖でエンジンがストップして、シケでもきたらどないなる？。附近に船はおらんし、風はピュピュウ吹いてきよるし、その時になってあわててもおそいぜ。平生からチャンと手入して、正しい取扱をして

おれば、そう故障をおこすものではないのや。たとえ故障がおこっても、勉強しておれば、おちついて応急処置もできるし、それで命が助かることがようあるもんや。それでないとならぬ資格ナンカアラヘン。ソラ命まで危い事故は万が一や。そやけど船乗りは、その「万が一」のために努力する心構えがないとエライことになるんや。分ったか。」

一同沈黙、話していた講師も、ついでに話が横道にそれるのも忘れて、長い説教をしてしまった。

この講習会の寸景は極端な一例ではあるが、決して一笑に附してしまえないものがあるように思う。要するに漁船などにおいては、魚を獲ることが第一であり、又漁業者もそれには極めて熱心であるが、縁の下力持であるエンジンを等閑視する傾向がなかなか抜けない。漁業者であり機関士であるところに大きな問題が残されていると思えるのである。それでもこの二、三年、漁村を巡回してこの方面の認識が急速に高まりつつある現状を見て、まことに喜ばしく感じている。それは近年不況をかこっている漁業の現状から、制限馬力内で、最大最高の力を出そうとする努力や、そうでなくても「馬

本邦より海外出漁について

近時海外との漁業提携の増加に伴い、諸外国からの引合もまた漸増の傾向にあるが、本邦人が外国人と提携して漁業界の事業を行う場合には本邦出国前に国内法令による諸手続を行い、その許可、認可等を受けなければならぬことになっているが、これを怠った為現地で問題を起し、債務弁済のため、やむを得ず船舶等を処分した事例もある中で、今後海外への出漁に当たっては、事前に当該あて充て分御連絡願いたい。  
 (兵庫県水産課)

力と漁獲」という密接な関係を、切実に認識されたことから生れた結果とはいえ、それによって自分の使っているエンジンを改良し、研究を重ねていくことは、実に涙ぐましい限りという外ないのである。たとえ一日に半リットルでも油が節約できるような効率のよいエンジンを使用していくことは、長い目で見た経営の合理化に大きくひびくことに目をむけてほしい。  
 (兵水試・S生)

# 頑張る内職グループ代表者達

## 内職団体代表者打合せから

このほど兵庫県立内職公共職業補導所の主催で、県下の内職団体代表者打合せが開催された。

会場は三越神戸店の西向いにある補導所の会議室で、周囲のビルからはねかえってくる昼下りの熱気で座っているだけでひどく汗になる。小山所長以下出席の職員をはじめ、男女合せて二十人程の代表者達は、内職という根のいる仕事で日頃から鍛えられているせいか、この暑さをものともしない熱心さである。

一般グループ代表者に交って、昨年からは補導所のおつ旋で仕事をはじめた加古郡阿閑村本荘と古宮の両漁業協同組合婦人部役員、それに、つい最近のニューフェース神戸市駒ヶ林浦漁協婦人部の部長外一名の顔も見える。

### 積極的な代表者

#### の発言

協議が始まった途端、まず代表者

の一人が発言を求める(この人は妙令なる婦人である。)

「私たち同じような工場にあるものですから、こうした場所に参集できたことは極めて有意義なことであると考えています。これを機会にお互いに横の連絡を密接に行なうてはならないと存じますが、今日がはじめての集りでございますので一人づつ自己紹介をする方がいいと思います。所長さま如何でございますでしょうか。」

まことにごもつともな御意見である。何も内職に限ったことはない、この位い場馴れた発言を漁協婦人部の方々も軽くやっつてのけるようにならないといけない。

### いろいろなグループ

はしの方からつぎつぎと自己紹介が進んで行く、中には自分のグループの現状などを要領よく説明する人もおれば、小声でしかも早口にアッ

と言う間にすます人もいる、簡単なことのようにもなかな難しいものだ。自己紹介を提案した御婦人は、驚いたことにはクスクス笑って何を仰言っているのか見当がつかない、処世術の一端をのぞかせ、

内職グループを色分けすると、市、町村(公民館)が指導しているもの、地域的に自然にでき上ったもの、婦人会が活動の中心になつているもの、共励会でやっているもの、身体障害者のグループ等がある。漁協婦人部は、地域、職域の両面からまとまりがよく、又生活の面で明るさをもっている点から、グループとしてはまず模範的存在と言つて過言ではなからう。

ただ、実際に内職という仕事の面では、共励会や障害者のグループがトップに立っており、地域的な自然発生グループや、ザアマス奥様にリードされている婦人会などの多くは、掛声の割に大したことはないようである。内職とはいえ、仕事そのものに対する意欲の相違の結果であり、それぞれの生活環境による当然の結果でもある。

自己紹介がきつかけとなつて、淡路北淡町の「青空グループ」代表者から、このグループの会員は三十人

程で、皆極めて熱心であり現在オモチャの傘を作っているが、そのうち十五人は漁業者の家庭婦人であるといふことが判つた。

漁家の婦人がこれだけ多くさんやっているのなら、地元の漁協婦人部がなぜ先にたつて世話をしなかったのだろうか、我々としても昨年来、啓蒙普及に力を注いできたつもりではあったが、こうして他のグループに先手を打たれてみると、どこかやり方のまずいところがあつたのだから、大いに反省しなくてはならない。

### 内職の大將

#### 月収一万八千円

グループでやっている仕事の種類は、干草編、玩具の傘などが一番多く一日に七時間働いて百円前後の収入となっている。

明石市にある婦人共励会では、共同作業所に六台の動力ミシンを備え付け、洋裁の仕事で相当な収入をあげているが、そこで要領を覚えると今度は仕事を家庭に持って帰る、こうしてミシンのある会員はみな同じように技術が上達し、製品の出来上りが揃ってくるので注文もだんだ

ん増えてくる、土地の婦人会のエプロンだとか、交通事故防止の旗といったように、まとまったものを引き受けているようだ。

しかし何と言っても驚いたのは、一日に六百円の収入を軽くあげている人のいることだ。この人は神戸市内のあるグループの代表者で、一見五十才位のおだやかな感じのする小母さんである。たしかに組織化されてない寄合世帯のグループの場合余り成績が良くない反面、こうしたグループのリーダーの中にずば抜けた頑張り屋の多いことが一種の皮肉な現象となっている。

この小母さんは毛糸の手編で、一着二百円(工賃)のベビー服を一日に三着仕上げる腕をもっている。同じ仕事をやっていて一日精々百円見当にしかならないような人でもこの小母さんが差向いで二日ばかり教えろと、能率が倍にはね上るといっから、それだけ自分の仕事に情熱と興味を持ち、創意工夫をこらしているのに違いない。自分が苦勞しているだけに人に教えるツボを心得ているのであろう、一日六百円、月にして一万八千円、こうなると内職と言っではおられなくなる。

どこかの漁協婦人部からこんな人が一人でもいいから出てほしいものである。

## 内職の悩み

### 仕事の不足と、低い工賃

折角グループまで結成して張切っているのに日をつめてするだけの仕事に廻されてこない。指導者の立場からこれほど困ることはない、と代表者の大半が深刻な表情で訴えている。これは、補導所としても現在直面している最も大きな問題で、この夏の炎天下を所長さん以下全職員が、県内は無論のこと、大阪府にまで足を伸ばして発註業者の獲得に大変な努力をしている。

しかし、最近の仕事の不足はどやら全国的な傾向だとのことで、遠く東京や名古屋の関係機関(役所)から、「神戸の方に仕事は余っていないか」と電話で所長のところへ泣きついてくる状態である。

五月頃から夏場にかけて仕事が減るのは、毎年の傾向だそう、指導者としては、こうした時期的動きに一喜一憂しないでもっと腰をおちつけて、グループの育成に心掛けるべきであらう。

ところで、漁協婦人部は、もともと内職だけを目的として作られた組織ではないだけに、例えば仕事が途切

れるような事態となっても、他のグループに較べて大きな強味がある、仕事がなくとも、組織の維持に困るといった悩みがないからだ、この点婦人部自体としても案外軽く考えていると思うが、他にみられない絶対的な強味である。

次に問題になったのが工賃である。特定の業種を除くと、内職による収入は、一日七時間前後の労働で百円にもなればましな方である。

特殊な技術をもっている人ならともかく、家事や育児に毎日を忙しく追い廻わされている一般の人の場合、根気と努力が、いくら必要であると説いたところで、結局は工賃の低いのがつかりしてしまうのが普通である。

あるグループの代表者は「どんなに頑張ってみても、一時間に七、八円がやっとだ」と嘆いている。工賃の低いのは、必ずしも発註業者が一人でもるもうけをしているわけではあるまいが、中には「内職者が団結して業者を相手に賃銀の引上げ交渉をやり、応じなければストをやりましょう」という勇ましい意見まで出された。このような内職者の気持は、至極もつともではあるが仲々簡単には始末をつけにくい問題でもある。

## 国際景気に左右される内職

内職に廻わされてくる仕事の大半が、輸出用の雑貨とかオモチャの類である。その国の国民生活とかあるいは産業にとって無くてはならないという性質のものではないから景気の変動によって受ける影響は、輸出品の中でも最も大きい。そしてもう一つの特徴は、内職の製品が、御婦人の服装そのものの激しい流行性をもっていることである。業者は、常に目先の変わったものを作るべく一生懸命になっているわけだが、こうした無理が、結局一番末端の内職者にしわ寄せされてくる勘定になる。

一方工賃の方をみると、戦後急激に増えた雑貨類の輸出は、日本国内の低賃銀をバックにしているような次第で、内職者が満足できるような水準にまで引き上げるといいうことは、とてもできない。せめて為替レート(円と外貨との比率)でも、もう少し有利に改定されたら、現状よりははずっとましになるとのことだが、これも一挙に解決できない問題だ。グループ代表者の中に、最近話題となっている「最低賃銀制」の内



職業界への適用を要望する声もあった、こうしたことは単なる思い付きに終らせず、いろいろな困難を切り開いて、ぜひともその方向へ持って行くのが、これからの大きな課題であらう。

### 現状の打解は

### 輸出の一本化で

各グループ代表者の切なる訴えも、現状では一朝一夕に解決されそうもないということになってしまいが、ここであきらめてしまつてはいけない。現に内職があり、やれば収入になるのだから、その気にさせなれば、少々安くてもかまわないという割切った考え方でないと駄目だ。

最後に補導所長は。「我々としては、できるだけみなさんのお役に立ちたいと考え努力しています。いろいろな御希望を、今すぐ実現させようとしても、問題があまりにも大きすぎて相撲になりません。しかし、内職をしている方々の団結ということは、あらゆる面からみて、どうしても必要だと思えます。将来は、関係者がそれぞれ有機的な組織を作り、輸出は調整機関が一本にまとめてやるようにしないとだめで

す、すでに金属食器の輸出では、この方式が真剣に検討されている様子だから必ずしも夢ではない」と説明

## 海区漁業調整委員会

### 委員決まる

本年八月、各海区漁業調整委員会委員の任期が満了したため、新委員の選挙が八月八日に行われたが、各海区とも無投票で次のとおり当選した。また、知事選任の公益代表委員と学識経験委員も任命され、九月中旬に会長及び会長職務代理者を選出して本格的な委員会の活動が始まる。

#### 各海区漁業調整委員会、新委員

##### 【摂津播磨海区】

- 漁民代表 島田文治郎(東神戸)前
- 福沢 勘一(家島) "
- 油野 豊吉(西宮東部) "
- 池野喜太郎(駒ヶ林浦) "
- 若松 福蔵(明石浦)新
- 増本 美男(林崎)前
- 井上甚三郎(伊保)新
- 公益代表 高野 忠男(姫路市助役)前
- 学識経験 三浦清太郎(兵庫) "
- 梶本寅之助(室津) "

されていたが全く同感である。

(淡路水産指導室長 小黒武)

##### 【淡路海区】

- 専門委員 本多 紀男(摂津播磨海区事務局長)新
- 漁民代表 日野 久吉(富島)新
- 小浜 菊松(東山良) "
- 魚井 健一(江井)前
- 家畠 鶴一(南淡)元
- 溝上忠之助(福良)新
- 神田 芳松(岩屋) "
- 我 栄一郎(仮屋)前
- 公益代表 畠中 幸作(元那家町長)新
- 学識経験 塩崎 義民(佐野)前
- 興津 寅一(津井)新

##### 【但馬海区】

- 漁民代表 福本藤太郎(香住)元
- 加藤 梅吉(浜坂)前
- 鳴海六左衛門(竹野浜) "
- 田中 鶴雄(諸寄) "
- 岡本久五郎(居組) "
- 藤原三四郎(柴山港) "
- 丸谷 藤一(津居山港) "
- 公益代表 西上 重弼(香住) "

学識経験 友田 源輔(余部) " 中村平左衛門(三尾) 新 専門委員 作花 英治(柴山港)前 (水産課調整係)

### 台風十七号の被害状況

今年もまた台風のシーズンがやって来た。八月二十五日近畿の東南部を襲った台風十七号は幸いその進路が本県から外れ、少い被害ですんだが、漁業は自然の猛威にさらされ易く大きな被害を被ることが多いので、これを未然に防止し又は最小限度に食い止め、漁業者の生命財産の保全に常に心掛けるようお願いしたい。

台風十七号の水産関係の被害概況は次のとおりである。

漁家	二五戸	三五千円
漁港	四件	八〇〇千円
共同施設	二件	二八〇千円
非共同施設	四件	八千円
漁船	一一隻	五六〇千円
漁具	二件	六千円
船具	二二件	一一千円
副漁具	二五、八五四千円	
計		(水産課調整係)

われらの漁民銀行

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

本 所 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥0193  
但馬支所 香住町字中浜頭 香住125

購 買 品 は 漁 連 で

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑤3424—5  
明石油槽所 明石市船町 明石3207  
富島油槽所 北淡町富島 富島 66  
飯屋出張所 淡路町飯屋 飯屋 59

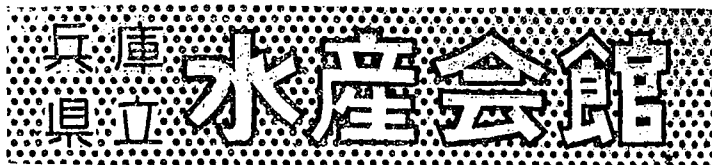
購 買 品 は 系 統 利 用

但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 弉

城崎郡香住町香住 電話香住154

神戸市兵庫区  
新在家町



電話⑤8301(事務所)

電話⑤9563(宿泊所)

発行所 神戸市兵庫区新在家町 123 兵庫県立水産会館内 兵庫県漁業協同組合連合会  
発行人 三浦清太郎